2Pa－4　　生活場面における服装意識と生活意識－２０代と４０～５０代の男性間の対比－

群馬女短大　○伊藤隆子　東京家政学院大家政　富田弘美
山梨県立女短大　小菅啓子　共立女大家政　小林茂雄

＜目的＞２０代と４０～５０代の社会人男性を対象に日常生活場面（職場、家庭、地域付き合い、セレモニーなど）における服装意識と生活意識を調査し、世代間の特徴について比較する。
＜方法＞東京及びその近郊地区の２０代と４０～５０代の社会人男性各々１５０人を対象に、生活場面における服装意識１８項目と生活意識２０項目について１９９３年１１月にアンケート調査を実施し、調査データを平均値の差の検定、因子分析により解析した。
＜結果＞因子分析により服装意識については、余暇の服装、スーツのあり方、家庭での服装、職場での服装の規範性、仕事着の必要性、冠婚葬祭の服装の６個の因子が抽出された（累積寄与率５３．８％）。平均値の差の検定より２０代ではパーティーなどの華やかな服装に関心を持ち、４０～５０代では職場での服装は規範意識を有するとともに機能性のある仕事着の必要性を感じている。両者共に、スーツ着用に対しては社会生活上便利であると肯定的であった。生活意識では健康と生きがい、地域付き合い、個人尊重、仕事への姿勢、人との付き合い、余暇の過ごし方、慶弔行事への考えの７個の因子が抽出された（累積寄与率５５．９％）。２０代は地域付き合いより個人との付き合いを求め、休日は外出したり、家事は夫婦で分担するなどプライベートな時間を大切にしている。４０～５０代は冠婚葬祭のセレモニーなどは形式的に割り切り、地域や家族とのコミュニケーションを心がけている。両者共に仕事については能力主義であり、技術や知識への向上心は大きく、特に２０代にその傾向がみられた。